

2022 年鳥取家族旅行

右城 猛

まえがき

コロナ禍が収束する気配が見えないため、ゴールデンウィーク期間中の旅行は諦めていた。

たまたま 4 月 16 日に見た TV「旅サラダ」で、三朝温泉「旅館大橋」が紹介されていた。部屋の天井が南天材で作られた「南天の間」に魅力を感じた。食事が美味しいのにも惹かれた。

ネットで検索すると、5 月 7 日はまだ空き部屋があったのですぐに一部屋予約した。その後、堀田家、明神家も行きたいというので、もう一部屋追加予約した。正裕と創士はキャンプの予定が既に入っていたため、明神家は怜佳と歎大の二人。

5 月 7 日から一泊二日で、鳥取砂丘、三朝温泉、とっとり花回廊を観光してきた。

鳥取砂丘

5 月 7 日(土)の 6 時に絹枝の運転で自宅を出発。山陽道(E2)播磨 JCT から中国横断自動車道(E29)に入る予定であったが、目的地を鳥取砂丘としていたカーナビが案内したのは、備前 IC から一般国道 2 号、373 号を經由して佐用平福 IC から中国横断自動車道(E29)に乗るルート。案内ルートをしつかりと確認すべきであった。

堀田家は予定通り播磨 JCT から高速道路を通ってきていたので鳥取砂丘には私たちより 20 分早く到着していた。



ラクダに乗って上機嫌の歎大



歎大は祐希と航希が大好き



器具を付けていても器用に飛び跳ねる航希

快晴に恵まれて最高の観光日和。歓大は大喜びでラクダに乗ったが、祐希と航希はいくら勧めても怖いのか乗ろうとしなかった。

砂の美術館も期待していたが、残念ながら7月まで準備のため休館となっていた。係の人に話を聞くと、砂像彫刻家はほとんどが外国人で、コロナの影響で入国できないとのこと。こんな所にもコロナの影響が出ているのかと驚いた。

三朝温泉

2014年から倉吉にある鳥取建設技術センターで研修会の講師をさせていただいている。最初は羽合温泉の「千年亭」や市内のビジネスホテルに泊まっていたが、2017年からは三朝温泉にした。

2017年には「後楽」、2018年には「三朝館」、2019年には「依山楼岩崎」に泊まった。三度とも一緒に講師をしている加賀山肇と二人連れであった。

旅館大橋に到着したのは15時。昭和7年創業で今年90周年を迎える。国の有形文化財に指定されている老舗旅館だけあって風格がある。

道路と同じフロントのある階が2階。堀田家の部屋は2階の「楓の間」。右城家と明神家は、3階の「杉の間」。いずれも一般客室。3階の一番奥の部屋が準特別室「南天の間」。1階が大浴場になっている。

90年経過し老朽化しているためであろう、廊下を歩くとギシギシ音をする。



創業90周年を迎える旅館大橋

旅館大橋の前の道路には、私たちが開発した「かんたん側溝」が使われていた。山陰自動車道を降りて松葉川温泉に来る途中の道路には、「ブレガード」が至る所に設置されていた。

郡家コンクリート工業が製造販売したプレキャストコンクリート製品である。



かんたん側溝

部屋で少し休憩してから、三朝温泉を散策。三朝川に「かじか橋」が架かっており、その中央に「足湯かじかの湯」とカジカ蛙のモニュメントがあった。

「かじか」とは、一般に川底を這うハゼのような小さい魚のこと。本山ではゴリと呼んでいる。ここの「かじか」は、「カジカ蛙」のこと。

カジカ蛙のきれいな鳴き声と、光を放ちながら飛び交う蛍が三朝川の夏の風物詩になっている。



足湯かじかの湯



カジカ蛙のモニュメント



三朝川の右岸に旅館大橋が見える

三朝川の左岸側にある温泉本通りに「泉娯楽場」があり、店内は観光客で賑わっていた。射的、パチンコ、スマートボールなど懐かしいレトロゲームが並んでいた。

私の高校時代のパチンコ台は、玉を1個ずつ左手で穴にいれ、右手でハンドルを弾く単発式であった。1970年代に入ると、店内に見られる玉皿から自動的に玉が送り込まれる連発式が出現した。その後電動ハンドルに変わっている。



温泉本通りにある娯楽場



スマートボールに夢中になっている三人の孫



スマートボールが現れたのも 1970 年頃であった。3 人の孫達は、初めてのスマートボールに夢中になっていた。

夕食は 18 時から。生ビールの後に大橋 90 周年限定ラベルの地酒「三朝正宗」(300ml)を呑む。だらっとした味で旨くない。中井酒造の純米大吟醸「八潮杜氏」(300ml、4 割精米)を注文する。酸っぱさが強すぎて口に合わない。やはり土佐の酒が一番旨い。

翌朝の朝風呂は「巖窟の湯(石湯)」。昨夜は女風呂になっていた。全国的にも珍しい自然のままの自噴の岩風呂である。湯舟の底には自然のままの状態ので岩が出ているので手をつきながらでないと歩けない。最大深は 90cm もある。小さい子供の入浴は危険である。底の一箇所から小さな泡が吹き出していた。そこに足をやると、60 度くらいの熱湯が湧き出していた。

早朝 6 時過ぎに一人で「巖窟の湯」に浸かって

いと、私と同年配とおぼしき男性が入ってきた。大阪で 10 人規模の会社を経営し、粉の製造をしている。私と同様に「旅サラダ」を見て申込み、「南天の間」に宿泊していると話された。

専用駐車場に止めた私の車の横に、大阪ナンバーのベンツが駐まっていた。この社長の車だった。

とっとり花回廊

旅館大橋を 9 時に出発。途中、一般国道 9 号の道沿いにある道の駅「ポート赤崎」に寄る。ここには赤崎町漁協直販センターがあり、新鮮な魚を安く販売している。ここを通るたびに寄っている。今回は、カレイの干物、フグなどを買った。200 グラムほどのノドクロが、1 匹 3500 円で売られていた。高いのには驚いた。

日本最大級のフラワーパーク「とっとり花回廊」には 11 時 20 分に到着する。2008 年 5 月に来ており、2 回目。入り口に、フラワートレインが展示されていた。歓大は自動車が大好き。見つけるとすぐに飛び乗った。



まず、フラワートレインに乗って園内をざっと見物する。乗車時間は 1 周 15 分。快晴の天気のお陰で、大山が明瞭に見え感動した。

園内中央にある国内最大級、花回廊のシンボルドーム。直径 50m、高さ 21m の巨大なガラス温室。胡蝶蘭などの花が咲いていた。



フラワートレインに乗って園内を散策



台湾との友好の証の「友好花壇」。台湾産の肥料が使用されている。



後方に大山の雄姿がはっきり見える

【2022年5月9日記】